

2025年11月9日(日)
中国新聞SELECT掲載



ためか、当初、教員に授業をどうすればよいか戸惑い、迷う様子が見られた。一方、体育だけは別格だ。休日の朝になると、どの町でも大人が子どもたちと一緒に、ヤージー姿で町中を歩いて

図工で自己表現後押し

いる。体を動かすことへの意識が非常に高いのだろう。授業を毎週金曜の午前中にすることも定着しておらず、教科書がなくてもすつと授業は行われてきた。

図工の機会を与えようと現地にある少ない材料で手だてを講じた。子どもは幼少期から図工の経験がないため、手先が不器用で筆圧も弱い。実線を安定して描くことも難しい。手先に関しては正方形に切った紙を「折り紙」と

本来なら幼児期に遊びの中から知識を得て、概念を学び、自己表現につなげていくのが理想だ。小学校の限られた時間の中ではあるが、少しでも概念を学び、自己表現ができるよう、多様な教材に触れる機会を設けていきたい。

国際協力機構（JIC）にすることを目指してい
A) 海外協力隊の小学校教員として、カメルーンの首都ヤウンデで図工、音楽、体育などの授業内容を現地の教員に提案する活動をしている。子どもたちにさまざまな学習機会を提供

着任するど、図工の授業そのものがなかった。そこで授業として取り扱うこととした。日本では考えられないが図工、音楽、体育の教科書は存在しない。その

にする」とを並べてい
る。

JICA
だより



カメルーン

木村友南さん(31)

鳥取市出身



小学校の授業で図工を教える 筆者（奥左端）